

## 第5節 環境教育

よりよい環境をつくっていくために、市民の環境保全意識を高める目的として、どのようなことが重要かを尋ねました。

### 1. 環境教育の重要性

「よりよい環境をつくっていくために、市民の環境保全意識を高める目的として重要なことは何ですか」という問いに対し、「学校教育や社会教育における環境教育の充実」を選んだ人が最も多く 70.8%を占めました。多くの市民が環境教育の重要性を認識していることがわかりました(図 19 参照)。

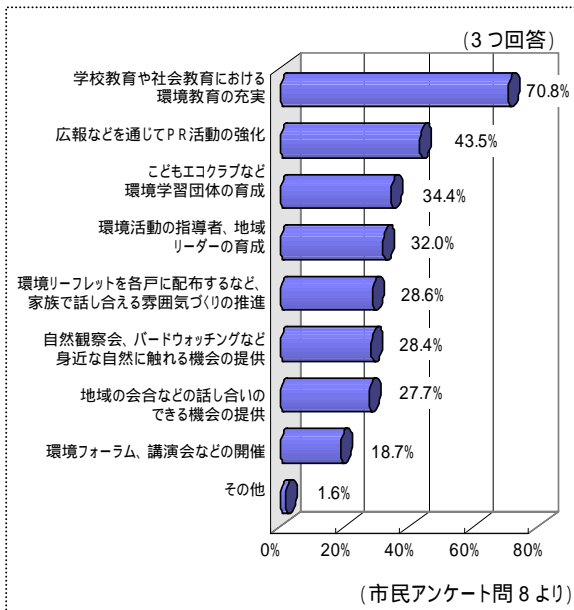


図 19 環境保全意識を高める目的として重要なこと

### 2. 年齢による考え方の違い

「よりよい環境をつくっていくために市民の環境保全意識を高める目的として重要なことは何ですか」という問いに対する回答を、年齢別にみると、「こどもエコクラブなど環境学習団体の育成」「学校教育や社会教育における環境教育の充実」は、若い人の方が比較的多く選んだのに対して、「地域の会合などの話し合いのできる機会の提供」「広報などを通じてPR活動の強化」は、高齢の人の方が多く選んでいます(図 20 参照)。このことから、若年層は、高齢層よりも、環境問題に関する知識や問題意識を身に付けるといった地域を超えた取り組みが重要であると考えており、高齢層は、若年層よりも、自分達が今何をすればよいかといった地域に根ざした取り組みが重要であると考えている傾向がみられました。

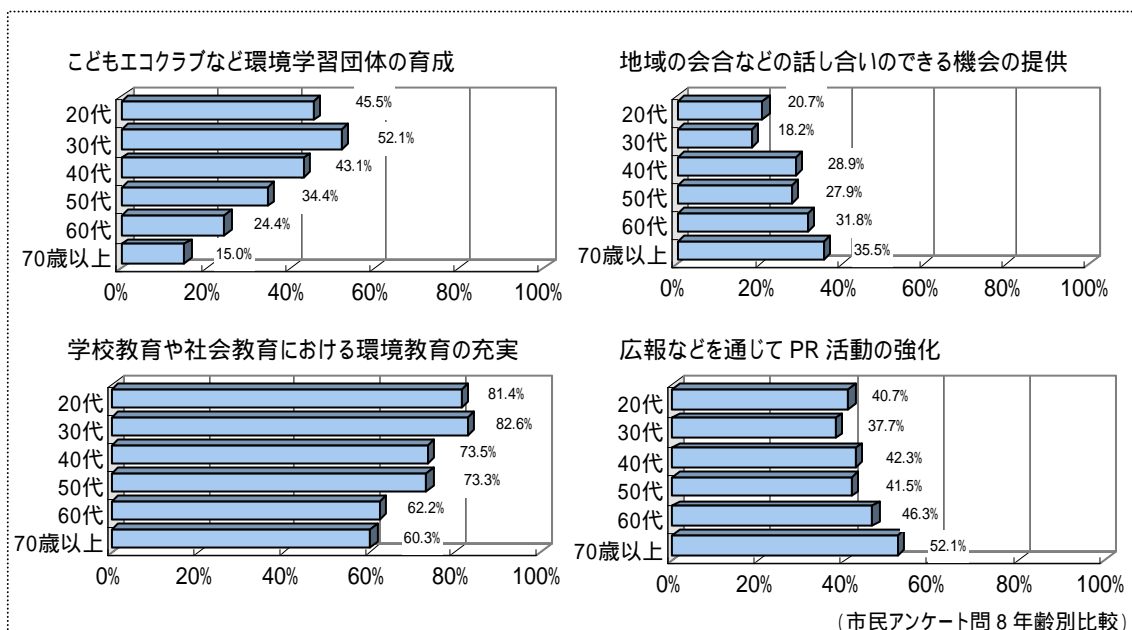


図 20 「環境保全意識を高める目的として重要なこと」についての年齢別比較

## まとめ

市民の多くは、よりよい環境をつくっていくためには、環境教育が重要であると考えているようです。

しかし、どういう方法で環境を学ぶかという、世代によって求めるものが異なるようです。

20代から30代の若い世代は、自由に参加でき、主に知識として教えられるものを望んでいます。それに対し、年齢が高くなるほど、より家庭や地域に密着し、自分たちで考え行動できるものを望んでいる傾向があります。

「環境教育」で一番大切なことは、知識として身に付けるだけでなく、その知識をいかに行動に結びつけるかということです。今後は、家庭、学校、会社、行政などそれぞれの立場から、ニーズに合った題材を見つけ出すことが、環境に対する意識を高め、行動につなげる第一歩であると考えられます。

### キーワード

年齢差

ライフスタイル

環境教育

### コラム2 環境活動の主体について～中学生との比較～

環境活動の主体について質問をしたところ、「市民、企業、市が協力して取り組む」と考えている市民、中学生が多いことがわかりました。それに加え、中学生では「市民が中心となって取り組む」と答える人が市民の約3倍となりました。中学生では、大人よりも「私達が行っていかなくてはいけない」と感じているようです。

市民アンケート		中学生アンケート			
1位	市民、企業、市が協力して取り組む	75.1%	1位	市民、企業、市が協力して取り組む	44.4%
2位	市民が中心となって取り組む	10.8%	2位	市民が中心となって取り組む	35.2%
3位	市が積極的に取り組む	10.4%	3位	市が積極的に取り組む	14.3%
4位	企業が積極的に取り組む	1.2%	4位	企業が積極的に取り組む	2.9%